

●雨天の天気予報の中、粘り強く待つ曇天の中「城陽市緑化フェスタ」が開催される 10月26日(日)  
この日のために松かさツリーを急遽250個作り上げたのが23日、5人の皆さんがつくりあげました。そして松かさツリーの製作手順を写真に撮りました。まだまだ丁寧さが必要ですが、台・棒・松かさの3つの材料を山から見つけ出して持ち帰り、工作作業を行います。



### 製作手順

**A** 台座を厚さ5mm程度に切断して、ドリルで穴をあける。



**B** 支柱になる木を5cm程度に切断して、両端を鉛筆削りでとがらせて台座にグルーガンを使って接着する。



**C** 松かさをニッパを使って出っ張りを取り、ドリルで穴を開けて、台座に付けた支柱にグルーガンを使って接着して出来る。



### 完成品



これに市民の皆さんに呼びかけて収集にご協力をしていただいたナンキンハゼの実を枝から取り外し、不純物除去作業の上、7色の絵の具で着色し乾燥させる作業が加わります。特に注意することはナンキンハゼを枝ごと切り落とすと翌年には実を付けなくなります。これまで街路樹として重宝され色づきが綺麗でしたが落葉清掃が大変と、落葉前に早く枝切りが行われますので実の確保に苦労しています。

松かさツリーは9月21日に城陽市で開催された「ごちそうフェスタ」、9月27、28日に植物園で開催された「いきものフェス」そして先日(10月26日)の城陽市「緑化フェス」で多くの皆さんに製作してもらいました。また今度は11月16日(日)に久御山町栄自治会から要請を受けて出展させていただきます。

●「京の川の恵みを活かす会」の食味会が実行されました。 10月26日(日)

降雨予報だったため、一号線高架橋下に会場を移して行われました。曇天で一日もって、苦労して届けた木炭が役割を果たしてくれました。



うまく焼けている  
ようです。

伝統的河川工法の第一歩 竹蛇籠製作講習会

## 令和の川づくりに参加しましょう

西洋土木技術が導入されるまでは住民達や戦国武士たちは洪水から農地などを守るために自然を生かした工事を行ってきました。その一つに武田信玄などが普及してきたのが身近な材料資材で竹蛇籠を製作して財産を守る道具として活用してきたとされています。洪水時には激しく土砂も動かされますから、それを利用して川は川が作るとしてきた伝統的河川工法の一つ竹蛇籠を製作して木津川で中聖牛5群16基を設置、両岸に6か所の竹蛇籠を設置、そして一昨年から将棋頭型水制を2基設置してきました。それに使用した竹蛇籠は198本になります。

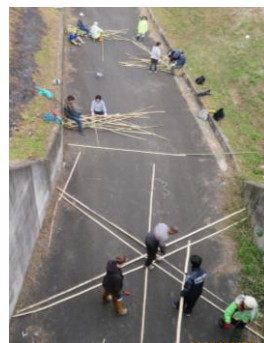
これまで伝統的河川工法を学ぼうとされて静岡県岡山県高知県福井県大分県等からの木津川にお越しになり、韓国や中国からも現地見学をお迎えいたしました。)

里山の会は京都大学防災研究所や国交省淀川河川事務所の理解協力を得て2015年から製作設置を行ってきました。2025年度取組として伝統的河川工法の一つである竹蛇籠(六つ目編み・幅45mmに割った竹を使用)製作講習会を行いますので関心のある方のご参加を呼び掛けています。

**参加費：無料**

参加申込方法：氏名・住所・電話番号・交通手段を明記の上、([fddb257@yahoo.co.jp](mailto:fddb257@yahoo.co.jp))にメールでお願いいたします。

服装：作業のできるように、帽子・足元はしっかりした靴・防寒対策を十分に  
作業手袋(軍手は準備してます)



木津川で198本製作して設置

今年は7mもの6本が最低目標

初日11月8日(土)9:00~12:30

製作場：木津川玉水橋東詰め広場

JR奈良線：玉水駅下車西へ徒歩300m

駐車場：無料であります

主催 特定非営利活動法人やましろ里山の会  
京田辺市田辺深田15 0774-64-4183